



学校だより



NO.10
東京女学館小学校
令和4年2月28日

呼吸する地球

小学校長 田中均

自分だけではなかったんだと安心する朝の会話は、「今朝は寒かったねえ」という会話です。念のため調べてみると、たしかに今年の一日の最低気温は例年よりも1℃度から2℃ほど低いようで、自宅が東京都多摩地区にある私の朝の通勤時間では0℃を確実に下回る日が多くなっています。

桜の開花が早くなったり、夏の暑さが厳しくなったり、また氷河の凍解などのニュースを見たりしている「地球の温暖化」が進んでいることを肌身で感じたりしています。一方、NASAで最も古くからある研究施設 ラングレー研究所のマーティン・ムリンザック氏が「私たちはすでに地球の寒冷化の傾向を観測しています。地球の高層上空の宇宙に近い場所において、私たちの地球の大気は熱エネルギーを失いつつあるのです。現在の傾向が続くならば、宇宙時代からのすべての時代の寒冷傾向の記録を更新する可能性があります」と述べている記事を目にしました。

地球が誕生してから46億年の歴史をさらに長い目で見ると、地球は約10万年ごとに暖かくなったり(間氷期)寒くなったり(氷期)を繰り返してきたことが分かっているそうです。その度に地球の海の高さは100メートル以上も変動してきたといえます。まるで呼吸をするたびに胸が上下するかのようです。さまざまな自然現象を見るにつけ、地球は生き物であることを実感します。地球にも体内時計というものがあるようにも思えます。

私たちの体の中にも体内時計があります。だいたい同じ時間に起きてほしいと同じ時間に眠気が襲ってくる、時間になるとおなかがいっぱい、夕方になるとセンチメンタルになったり。学校もこうしたリズムの輪の中にあります。コロナ禍の学校生活です。普段と違うことも少なくありません。しかし、私たち自身のなかにある体内時計を大切にしていきたいと思っています。

最後に疑問を一つ。温暖化と寒冷化が同時に進むなどということがあるのでしょうか。

書き初め大会

習字担当 教諭

年始めの伝統行事、書き初め大会。当初予定の一月二十七日から延期され、今年は二月九日(二年生は二十一日)に行われました。

換気の為に窓を開けると冷んやりした空気が入り込み、より一層気持ち引き締まって、一枚の清書用紙に丁寧な筆を運んでいました。結果として賞が決まりますが、この日までに多くの練習を積み重ねた努力の跡が、美しい黒い線となって表れていました。

小学校で初めての硬筆お書き初め。教室に流れる筆の調子を聴きながら、鉛筆を持つ手にも力がこもり、一字一字心を込めて書きました。

一年A組 児童

かきぞめたいかいたのためにたくさんれんしゅうしました。一番むずかしかったかん字は「気」です。はじめはそんなにじょうずではなかったけれど、お手本をしっかりと見て、かみのあいているところに、なんかいもれんしゅうして、だんだんじょうずになりました。

一年B組 児童

おかきぞめたいかいたの日。さいしよは、ドキドキしていましたが、はじまるといつもよりも字がじょうずになっている気がしました。いつもれんしゅうをがんばっていたからかな、とおもいました。これから、おかきぞめたいかいたでなくても、字をきれいにしていねいにかきたいです。

三年A組 児童

本番、私はとてもきんちょうしていました。練習では一度も上手に書いていなかったからです。書き始める前に正字を覚えておいて、心が落ち着きました。自分を信じて思い切って書きました。すると、「お正月」の「月」の字のはねが三角になり、きれいに書いてうれしかったです。体育館がすみのかおりにつつまれ、三年生みんなが集中してがんばったことがすてきな思い出になりました。

三年B組 児童

毛筆でのお書きぞめがはじめてで、時間も一時間でまいししか書けなかったで、心ばいできんちょうしてしまいました。さいしよの「お」は、はじめてうまく書けました。練習ではばさばさになっていた二画目のはらいが、お手本のようにきれいにできました。練習でできなかったことができた、できたことができなかったりしてどきどきしました。

くやしかった書き初め大会

五年A組 児童

私は、この書き初め大会のために一年間たくさん努力しました。そして楽しみにしてきました。なぜなら三、四年生で二回とも銅賞だったからです。本番前は二枚書いて良いことになっていましたが、コロナ禍ということで一枚に変更になってしまいました。二回書けるはずだったのに一回になってしまい、より緊張感が増しました。そのため、うまくコントロールできず、自分の納得いく作品にはなりませんでした。すごくくやしかったです。まだ結果は出ていません。けれど六年生の書き初め大会では「絶対金賞」といえるくらい力をつけて挑みたいです。

悲劇の書き初め大会

五年B組 児童

書き初め大会前日悲劇が起きた。準備中に筆先を触っていたら、先がすっぽり抜けてしまったのだ。新しい筆を買いに行く時間もなかつた。困ったが、ぐっと押し込んで当日を迎えた。試し書きをすると大丈夫そうだったので安心した。しかし、本番で書き始めると「の」を書いてる時に筆がスポッと抜けてしまったのだ。頭の中は大パニック。とにかく書き切らなきゃと思い、必死に押し込んで書き切った。「新春の光」の出来上がりは、やはり歪んでしまっていた。悔しくて涙がこぼれそうになった。来年こそは準備万端にし、力いっぱい楽しく書けるようにしたい。

思いをのせて書く

六年B組 児童

今回の書き初め大会は、小学校生活最後でした。今年書いたのは『夢の実現』でした。今年も昨年と同じく一枚しか半紙が配られませんでした。それだけにとても緊張しました。

緊張をほぐすために、周りのお友達が書き始めるのを待って、その間に、深呼吸をして心を落ち着かせてから、書き始めました。

私は、くせで文字が左寄りになってしまいい名前を書く場所がなくなりがちです。しかし、書き初め大会では、まん中に書くことができ、とても安心しました。今回も賞は取れなかったけれど、自分ではとてもいいなと思いました。もともと自分で満足できる文字を書けるようになりました。



すずかけ お箏 1月20日(木)～2月10日(木)

例年9月に行っている『すずかけ 箏曲』の授業ですが、今年度はコロナウィルス感染症の感染状況を鑑みながら、1月に実施いたしました。3密回避の為に万全の策を取りながらの授業となりました。1年生は「ロバさん」、2年生は「うさぎ」、3年生は「かごめかごめ」、4年生は「越天楽今様」、5年生は「こきりこ節」、6年生は「さくらさくら」を講師のH・Y先生と先生のお嬢様でお箏の演奏家であるH・M先生のお二人から丁寧にお教えいただきました。各クラス1時間ずつの授業でしたが、先生のおっしゃること、先生の奏でる音を聞きもらさぬように皆集中して授業を受けていました。今年度6年生は、畳敷きの作法室での授業となりました。体育館の響きとは違う、趣のある、和室ならではの響きに包まれながら贅沢な時間を過ごしていました。和室でのお箏の演奏を6年間の思い出の一つとしてくれることを願っています。最後になりましたが、今年度ご厚意でお箏をお貸しくださいましたN先生にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

すずかけ担当 教諭



『越天楽今様』

4年A組 児童

授業の最初にH先生から「この曲の名前は何でしょう。」と聞かれて、私は『こてんがく いまさま』と読んでしまいました。正しくは『えてんらくいまよう』でした。『今様』の意味は、今はやっているということでした。今年の曲は伴奏が付いていて、その時はつめを外して左手で一・二・三の糸を、右手で四・五・六の糸を交互にひきます。素手だといたかったです。私は、毎年、先生はなぜつめを三つ使っているのか不思議に思っていました。5年生になると私たちも親指・人差し指・中指につけるそうです。来年はもっときれいな音色でひけるようになりたいです。

4年B組 児童

わたしはお箏のじゅぎょうで、今までひいたことが無かったオブリガードそう法をしました。オブリガードそう法では直接指でげんをはじくので、とても手がいたくなりましたが、すごく音色がきれい。「お箏からこんな音色が出るんだ。」と思いました。またオブリガードそう法でえんそうしてみたいと思いました。

2年A組 児童

今日は「うさぎ」というきょくをひきました。うさぎがはねているようなきょくなので、あまりひくい音はつかいませんでした。みんなではねたのが楽しかったです。「うさぎ、うさぎ、何見てはねる」までひきました。つづきがどんなきょくか気になります。ひいているげんをおさえてしまうと音が鳴らないので、さわらないようにしました。まん中をひかないで、つのがわをひきました。まちがえずにひけてよかったです。バディーさんは力強くひいていてすてきでした。家に帰ると、お母さんがつづきを歌ってくれました。「十五夜お月さま見ては～ね～」

2年B組 児童

今日ひいたのは「うさぎ」です。はじめに六番目の糸、つぎに七番目の糸、つぎに八番目の糸、これだけでうさぎになります。わたしがふしぎに思ったのは、同じ「うさぎ」でも、げんをひくじゅん番がちがったことです。でも、たしかに音の高さがちがいました。わたしは二番目のほうが明るくてすきです。二番のげんのじゅん番は八番目、七番目、八番目です。

あと、わたしはおつめをつけるおやゆびのつけねをけがをしていたので、すごくいたかったです。でも、けがのおかげでそこに力を入れることを知ることができました。今回のおことも、いろいろなことを知れてよかったです。

6年A組 児童

小学校最後のお箏の授業。6年生は「さくらさくら」を弾きました。5年生のころとは違い、左手を使って、半音を上げたり、強弱をつけたりするなど、また新しい技を習得しました。私は低学年の頃、楽譜通りに弦を弾ければ完璧だと思っていました。しかし高学年になってその考えが間違いであることに気づきました。弦を弾くだけではなく、皆の音を良く聴き、リズムを合わせ、余韻を感じることがとても大事であることが分かりました。H先生はずっとそのことをお話ししていたと思いますが、ようやくその意味に気づいたということかもしれません。お箏にはお箏特有の音の出し方があると先生から聞きました。同じ弦楽器のピアノなら弾く位置で音を変えられますが、お箏は弦が13本しかないの、「おじ」を動かしたり、左手を使ったりして音を作り出します。そのようなところもお箏の魅力の一つだと思いました。1時間の授業となってしまいましたが、「さくらさくら」の曲を最後まで演奏できてよかったです。

避難訓練

生活指導部 教諭

1月17日(月)9時55分より第3避難で実施しました。訓練のねらいは、①地震発生時の行動の確認 ②安全に避難する方法の確認 ③「おかしめ」の徹底の3つです。本来であれば、校庭に整列して上のねらいの確認をするところですが、密の状態になるのを避けるため、廊下に並んで人数確認をするところまで行いました。一人ひとりが放送をしっかりと聞き、落ち着いた態度で参加していました。折しも二日前の15日にトンガ沖で海底噴火が発生し、世界的に大きなニュースとなりました。地震はいつ起こるか予測が難しいうえに、地面や建物が揺れるだけでは済まず、物が倒れたり出火したりすることもあり、いつも同じ状況になるとは限りません。

この訓練を、地震や防災・避難について正しく理解し、身を守る行動について考える機会にしてほしいと思います。

第二回新1年生保護者会(交通安全教室)

小学校教頭 下田 栄子

2月8日(火)に、新1年生の保護者会をオンライン形式で実施しました。事前に必要な資料や学用品を送付し、当日は画面を通して田中校長先生のお話や入学の準備についての説明を80名の保護者の皆様に聞いていただきました。本来ですと、4月から1年生となる子ども達は、この日に講堂で渋谷警察のお巡りさんのお話をうかがったり小学校の図書室を訪れたりしていました。けれども、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、この2年間学校に集まっていたことはできていません。事前に録画した交通安全教室の映像を配信し、ご家庭でご覧いただいています。



安全のために距離をとりながら、学校とご家庭とのつながりを深める方法に工夫を凝らしている日常。新一年生の子ども達と保護者の皆様に、小学校生活への期待感や安心感を少しでも持っていただくことはできたでしょうか。4月、入学式に揃う笑顔との出会いが楽しみです。

2月の生活目標 「きまりを守って休み時間をすどす」

現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休み時間の遊ぶ場所、内容が制限されています。その中で、寒さに負けず、校庭で元気に遊ぶことで心も身体も健康に過ごすことができます。また、きまりを守るとは怪我や事故を防ぐことにつながります。一人ひとりが優先順位を考え、約束や時間を守って休み時間を楽しく過ごせるように声をかけてまいります。

3月の行事(予定)



東京女学館小学校ホームページ
<https://t.jk.jp/p/>

3日(木) 桃の節句

4日(金) 面接週間4時間授業・5,6年平常授業 [3月15日(火)まで]

8日(火) TV朝会

9日(水) 6年修学旅行(日帰り)

10日(木) 1年こどもの国

11日(金) 体操朝会・2年こどもの国

15日(火) 給食終了

16日(水) 1年～5年 保護者会・家庭学習日

17日(木) 卒業式準備(6年登校)・中学生のお話(8時30分～講堂) 家庭学習日

18日(金) 卒業式(第88回)

21日(月) 春分の日

22日(火) 2時間授業・大掃除(3校時)・軽食あり

23日(水) 修了式・離任式・2校時学級指導